

第2回選定委員会議事録

令和5年7月14日(金)

【開会】

- ◇事務局 欠席者報告
- ◇会長 議事確認
- ◇事務局 日程についての説明

【算数】

- ◇調査員 東京書籍。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、2、3、5の観点。
大日本図書。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、なし。
学校図書。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-④、3-⑥、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、1、4の観点。
教育出版。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑥、4-⑧、5-⑩。他と比較して優れているところは、なし。
啓林館。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑥、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、1、4の観点。
日本文教出版。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-④、3-⑦、4-⑧、5-⑨。他と比較して優れているところは、なし。
以上のような調査結果から、優れていると考えられる特徴のある三者、東京書籍、学校図書、啓林館の教科書について説明する。
東京書籍について、第2の観点と第3の観点と第5の観点を取り上げる。
第2の観点について。2年生の下の教科書の44ページ。「今日の深い学び マイノートを学習に生かそう」を設定し、どのように考えて、問題を解決したかを振り返ることができるように、ノートのまとめ方(式と答えだけでなく、図や表、グラフを使うことなど)や図の書き方などを具体的に表している。また、算数に関わる大切な見方・考え方も示している。
このことは、問題解決の道筋を振り返ることに有効な、児童自らがノートに自分の考えをまとめる手助けとなるための工夫として、他の教科書と比較して特徴的な点である。
第3の観点について。6年生の各単元の終わりに「できるようになったこと」「次

に考えてみたいこと」が設定されている。例えば、6年生の教科書の132ページ。円の面積の学習を終えた後に、中学校では、これまでに学習していない図形について学んでいくことを示している。中学校進学に向けて、中学校での学習に繋げる工夫として、他の教科書と比較して特徴的な点である。

第5の観点について。4年生の下の教科書の65ページ。「今日の深い学び」を設定し、学習の進め方と共に、友達との話し合い活動を進めるポイントを示している。説明の活動が意図的に仕込まれており、友達と話し合ったり、説明したりすることができる工夫として、他の教科書と比較して特徴的な点である。

このように、東京書籍は、問題解決の道筋を振り返るための、児童自らがノートに自分の考えをまとめるための工夫、また、中学校での学習につなげる工夫、そして、友達と話し合ったり、説明したりすることができるための工夫が特徴であると考える。

なお、第1、第4の観点については、別紙の一覧に示している通りである。

東京書籍は、6年生以外は、各学年上下等の2冊構成となっている。

学校図書について、第1の観点と第4の観点を取り上げる。

第1の観点について。5年生の上の教科書の32ページ。単元末に「できるようになったこと」で基礎問題を、「まなびをいかそう」で発展問題を設定している。その後「ふりかえろう」で、その単元で大切な学びを整理している。基礎と発展、振り返りの設定が、他の教科書と比較して特徴的な点である。

第4の観点について。第2学年の上の教科書の122ページ。どの単元も単元の初めに、日常生活に関連する問題場面をイメージのしやすいラストで描かれている。また、自然な会話の中から疑問を引き出し、その疑問をめあてと設定しており、児童の理解を助ける工夫があるのが特徴である。

このように、学校図書は、基礎基本を定着のために、段階的に問題を配置していること、また、イラストを活用し、問題場面等をイメージしやすくしたり、自然な会話から生まれる疑問をめあてに設定したりするなど、児童の理解を助ける工夫が、他の教科書と比較しての特徴的な点であると考えられる。

なお、第2、第3、第5については、別紙の一覧に示している通りである。学校図書は東京書籍と同じく、6年生以外は、各学年上下等の2冊構成となっている。

啓林館について、第1の観点と第4の観点を取り上げる。

第1の観点について。3年生の上の教科書の36ページ。単元の初めに、日常生活場面を取り上げ、単元全体のめあて「これからの学習のめあて」を示している。目標が示されているため、児童は見通しをもって学習を進めることができることが特徴である。

第4の観点について。2年生の上の教科書の88ページ。単元の初めに解説動画が設定されています。教科書の内容にそって補足説明があり、その補足説明は、児童の予習や復習でも活用できる、児童の理解を助ける工夫があるのが特徴である。

このように、啓林館は、単元の初めに、単元の目標が示されていること、そして、児童の理解を助ける解説動画があることが、他の教科書と比較しての特徴的な点であると考えます。

なお、第2、第3、第5については、別紙の一覧に示している通りである。啓林館は、5年生と6年生は1冊で、その他の学年は上下等の2冊構成となっている。

◇会長 ただいまの調査報告について、選定委員から質問をお願いします。

◇委員 現行の教科書よりもQRコードが、増えているが、内容的に特徴等はあるか。

◇調査員 解説動画については内容が違うが、その他のものについては、特に特徴があるとは捉えていない。

◇会長 ただいまのご質問に関わってどこのものも作りが良いとか、とてもよくできているかということを感じられたということはなかったか。

◇調査員 そのところは調査できていない。

◇会長 現在、使っている教科書は。

◇調査員 東京書籍である。

◇会長 東京書籍を例にとっていくと、今使っている教科書とこのたび審査の対象になっている新しい教科書はどのようなところが大きく変わっているか、あるいは変わっていないか、気づいたことがあれば、教えてほしい。

◇調査員 吹き出しや補助発問は、以前もあったが、現行の教科書は前半も後半も同じ量の吹き出しがあり、頻度も同じような感じだった。しかし、今回の教科書は、前半部分では、吹き出しとか補助発問はすごく丁寧にあるが、後半は、その能力を発揮して問題を解かせていくという趣旨で吹き出しの内容の方がすごく短くなって、ヒントも少なくなっている。そこから答えを導き出すというのが、変更点である。

算数の場合、既習したことと同様に考えるということが重要な考え方であるが、そういう場面で「同じように考えると」というような文言でその続きが今まで多かったが、少なくなっている。

1時間終わった後に、例えば、円の面積を自力で求める。その求めた後に、「円は面積の公式って作れるのかな。」と次の学習につながる文言が書いてあるのも新しいものと捉えている。

◇会長 今取り上げられたことは、次の単元につながるようなものなのか。疑問に思っただけで深めてみようというタイプのものなのか。次の単元に続けるタイプのものなのか。

◇調査員 次の単元に続けるものです。

◇会長 学習内容と学習内容の間を有機的につないでいくような工夫があるということか。

◇調査員 そうです。

◇会長 今のようなところが、特に、東京書籍の場合は現行のものからの進化したもの、工夫されたポイントということだが、今のような特徴は、他者にも見られるか。

◇調査員 発展的に考えることについては、他者もやっている。例えば、基礎基本の定着について、東京書籍はつなぎを考えている。学校図書もつなぎを考えている。啓林館は、つなぎがあるような文言は追加されていないと捉えている。

◇会長 これは、大事なポイントと言える。

◇委員 QRコンテンツは授業で使われているか。QRコンテンツは授業で1回1回使うものなのか。家庭に帰って使うものなのか。

◇調査員 家庭に持ち帰ってというのもやっているが、先生の授業の進め方によって子供が読み取る場合もあるし、全体に映して見せる場合もある。いろんなケースがあるが、使わないということはない。

◇委員 必要なものは必要である。

◇会長 実際には、場面場面で、適宜、取捨選択したりしながら使っているということ。

◇委員 教科書の内容に直接は関係ないかもしれないが、教科書のサイズは考えて選ばれたか。

◇調査員 内容がメインであるが、ランドセルの重さ等を考えた時に、内容が同じような状況だった時には、コンパクトの方が良いと思う。ただ、それを重視して選んだわけではない。

◇会長 いただいた調査報告書をもとに、十分に審議を行う。

〔調査員退室〕

◇会長 事務局は、ホワイトボードに今日どこが特に特徴的で優れた報告としてあげられたかということ、メモを取っている。また、質疑応答で出たことも、メモを取っている。皆さん、それぞれ、実際の教科書を確認しながら、ただいまの報告について意見をお願いします。調査員の方から上がってきた特に優れている印は参考ということで実際に丸や黒丸をつけるのは選定委員会の仕事であるので、丸がついているがそのように評価できないという場合は、中点に戻したりということもある。また、我々が出す報告書については、調査研究報告書をもとにするが、その表現も、改めた方がより伝えたいことが伝わるということであれば、改訂もするので、その辺りの意見もいただきたいと思う。

◇会長 まず、東京書籍については第2の観点に、④に丸がついているが、ここは確かに優れた点。ここに書かれているノートの取り方。実際に役に立つ方法を教えている。

ここは確かに○で出した方がよい。実践的な学習を行うことができると付け加えたい。また、第5の観点についても、よいのではないか。⑦の中学校との関連については、たしかに優れているが、他者に比べて○を付ける程かどうかは検討した方がよい。

学校図書について。2つ挙げられたが、優れた点としてあげてよい。第1の観点、「知識技能の定着に有効」という文言にした方がよい。第4の観点について。ただ興味関心だけでなく、生活と概念を結びつけていくことに意味がある。「興味関心を増すとともに理解を深められることになっている。」と、価値付けを加えた方がよい。

啓林館について。第1の観点について。各者当たり前のこと。「学習に向かわせるものになっている」としたらよい。第4の観点は、○にしてよい。

◇委員 学校図書の第4は○で良いと思う。子供たちに分かりやすく、導入ができる。授業で一番初めに大切なのは、導入場面。考えやすい。東京書籍のノートの作り方。自分で主体的に学んでいくことができる。書き方の目安が書いてあるのは○でよい。

◇委員 東京書籍も学校図書も見たが、学校図書の6年生の中に、同じようなページがある。6ページ。「ノート名人になろう。」とある。ここは、教育委員会として、各学校に勧めているやり方とまさに同じ。ここだけを取り上げれば、本市にフィットしている。学習指導要領が変わっていない中で、前回採択から変えるのは学校では大きい。現行の教科書ベースで。それよりも優れて、改訂していれば、他者に。ノート名人については、学校図書の方が優れていると思う。

◇会長 そのことを書き加えるとしたら、どうなるか。

◇委員 同じ土俵で見るなら、問題解決的な学習を実施するためにノート指導は大事だと思う。そういった部分を比べて見ておくというのは大事である。

◇会長 今の意見を書き加える。「ノート名人になろう」は、「尾道市における問題解決的学習の指導の形に沿ったものである。」とした上で、○をつけてもよい。東京書籍と遜色ないのであれば、学校図書も東京書籍ともに⑦を○にして、優れた点であるとしてもよい。○の数、順位ではなく、優れた特徴を明確にすることが大切。

◇委員 啓林館について。このQRコンテンツから何が見られるか書いてある。東京書籍は特に書いてない。先生たちは教材研究する中で把握できるが、子供たちにとってはポイントのところに解説が書いてあるので、優れている点ではないか。

◇会長 第4の観点。○でよい。「見出しがついており」、と書き加えて。

◇委員 ノートの作り方について。3者を比べてみた。丁寧なのは、東京書籍と学校図書。尾道市の観点で言うと、「言語活動の充実」とも書いてあるので、学習の基本となるノートの作りを丁寧に扱っているのはよい。遜色なくできている。決定的な差が

あった方が良いのか。

- ◇会長 今の意見は、どのようにするか。第4の観点のところ。東京書籍、学校図書ともに評価できるので良いと思うが、この違いは、どういう特徴にあるかを書かないといけない。東京書籍はこんな風に教えている。学校図書はこんな風に教えていると。
- ◇委員 タブレットを使っている中で、ノートを作る意義はある。価値付けできれば、評価の観点になるのではないかと思う。
- ◇委員 見方・考え方を前面に出している。学校図書は、「モンスター」、東京書籍は、「つないでいこう。算数の見方・考え方」になっている。各者、見方・考え方を出示してきている気がする。あまり比較にはなっていないが。
- ◇委員 ノート指導のところと言うと。本市が言っているのは、これまでやってきたこととICTを上手に組み合わせることである。ノート指導も大事な学びを深めるツールとしてやっていこうと言っている。もちろんタブレットも使って、個別最適な学びをやっけいこうと言っている。基礎基本、第1の観点を深めるために、各者QRコードに力を入れて出している。数ではなく、中身で比較できればと思う。特に、小2の基礎基本を押さえていくことが、義務教育の9年間の学びにつながるということで2年生に力を入れている。一番のポイントは九九。他の者はどうか。
- ◇会長 タブレットを使うようになったからノートがいらないではない。ノートを使って、見方や考え方を深めていくことが大事。このことを、この委員会で確認できれば良いのではないか。タブレットを活用していくことは、子供の思考を深めていくためにある。ノートの使い方を2者が示している。タブレットがあるからノートは良いやというのではなく、ノートの活用も大事。選定委員会ではそこを認めたと説明を付け加えるということでしょうか。
- ◇委員 東京書籍について、第6学年に特化して書いているが、既習事項が次に使えることも書いてある。あえて6学年と書かなくても、どの学年にもある。
- ◇会長 第6を削除。「学年の」とする。
- ◇委員 単元末に書いてある。
- ◇会長 「単元の」と、文言を修正。
- ◇委員 東京書籍にはプログラミングが出てくる。現場では、どのように活用されているか。基礎基本は大切だが、進度の速い子への対応はどうか。実情はどうか。
- ◇会長 現場の実情をご存じの方。早くできた子に、こういった発展的な課題を与えることはあるのか。
- ◇委員 具体的になければ、活用がなければ、取り上げなくても良い。あれば特徴になると思ったので。

- ◇会長 課題がすんだ後、何もすることがないというのはもったいない。そういう使い方をすることもできる、こういう風な編成になっているという点は記録しておきたい。
- ◇委員 プログラミング教育については、学習指導要領では5年生の算数、6年生の理科などで学習することになっている。今回の教科書では、それ以外のところでも掲載されている。県の選定資料の58、59ページに調べられている。意識して作られている。どこで使うかは、いろいろあると思う。
- ◇会長 啓林館にも出てくる。
- 学校図書の第4の観点のところをもとに戻す。○は東京書籍と学校図書が3つ、啓林館が2つ。東京書籍で第6学年以外でもできると言われたところも評価できる。学校図書もノートのところ、啓林館もプログラミングを体系的に算数の中に取り入れているというところが特徴。
- 選定委員会では、東京書籍と学校図書が2つ並んで優れているとなる。教育委員会では、どちらが良いかと尋ねられるかもしれないが、○の数だけではなく、どのような内容を尾道市では評価するかということになってくる。ノート指導や単元と単元の間について評価したい。東京書籍は、話し合い活動が有効に機能する。学図は日常生活との関わりを重視。どちらに価値を置くかを、教育委員会で判断してもらおう。議論になった内容は、伝えていきたい。事務局の方でとりまとめをお願いする。
- 算数は以上。

【外国語】

- ◇調査員 東京書籍。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-④、3-⑥、4-⑧、5-⑨。特徴的な点は、第4の観点。
- 開隆堂。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-③、3-⑥、4-⑧、5-⑩。特徴的な点は、第1、第3の観点。
- 三省堂。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-④、3-⑤、4-⑧、5-⑩。特徴的な点は、第1の観点。
- 教育出版。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-③、3-⑥、4-⑦、5-⑨。特徴的な点は、第2、第4の観点。
- 光村図書。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-③、3-⑥、4-⑧、5-⑨。特徴的な点は、第3第5の観点。
- 啓林館。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-④、3-⑤、4-⑧、5-⑩。特徴的な点は、なし。

続いて、6者の中から、特に特徴的であった3者の教科書について、報告する。

この3者は、いずれも指導者が指導しやすい教科書になっているという共通点がある。外国語科は、音楽科や家庭科のように、指導者側の技能が一定程度求められる教科書であると考えられる。これから紹介する3者の教科書は、英語力について自信がない指導者でも、デジタルコンテンツを併用することで、学習指導要領で求められている資質・能力の育成につながっていきけるように教科書の構成が工夫されていた。はじめに、開隆堂Junior Sunshineについて説明する。

この教科書では特に第1の観点「文法事項の指導の工夫」と第3の観点「習得した知識技能を活用した言語活動の工夫」を取り上げる。

本書の第1の観点について5年生の教科書51ページ。単元の初めに公民館活動を紹介し、「私は〇〇ができる。」「I can. . .」の表現の学習が始まる。「I can」または「I can't」の表現になれたところで、54ページのように、久保さん、藤井さん、池江さんが登場し、主語が固有名詞から、He、Sheという代名詞へと発展している。この工夫は身近な内容から、3人称単数へと表現の幅を広げていくことは、児童にとってわかりやすく、指導者にとっては指導しやすい学習展開になっている。

また、第3の観点については、6年生の教科書14ページ。新しい英語の先生が来たという場面設定があり、学習を進めて「まとまりのある自己紹介」が完成するように構成されている。このページでは、デジタルコンテンツを使って、他国の同年齢の児童のスピーチをしっかりと聞かせた後、「自分が話すことを整理する活動」が仕込まれている。あえて「まとまりのある自己紹介」とねらいを明確にして、スピーチを作成するまでの学習の流れが詳しく説明しており、教師も児童も学習活動をイメージしやすい構成になっている。

その他、第2、4、5の観点については、別紙の一覧に示している通りである。開隆堂の教科書は「文法事項の指導の工夫」と「習得した知識技能を活用した言語活動の工夫」に特徴があると言える。

次に教育出版「One World Smiles」について説明する。

この教科書では特に第2の観点「聞くこと話すことの工夫」と第4の観点「学習内容と関連した図・イラスト・写真・資料・QRコンテンツ等の有効性」を取り上げる。

本書の第2の観点について6年生の教科書11ページ。鉛筆を持ったキャラクターが「友達のことを知って仲良くなろう」と単元学習のはじめに、ゴールを示している。また16ページの「Final Activity」では、動画撮影を通して体験的な学べるように工夫されており、話すこと聞くことに非言語的なアプローチを含めた総合

的な表現活動が展開されている。

また第4の観点については、5年生の教科書53ページ。このイラストには、幅広い年齢層が登場し、様々な国籍や文化などが網羅され、人を支援するロボットまで描かれている。現代の子供たちの日常が適切に表現されている。55ページでは、単元の主な学習事項である「I can/I can't」を使った動物クイズがあり、興味関心を高めている。そして56ページでは、自分たちと年齢が近く、世界で活躍している5人の方々が紹介されている。それぞれのページにはQRコードがついており、児童が音声を確認することに役立っている。

その他、第1、3、5の観点については、別紙の一覧に示している通りである。教育出版の教科書は「聞くこと話すことの工夫」と「学習内容と関連した図・イラスト・写真・資料・QRコンテンツ等の有効性」に特徴があると言える。

最後に光村図書「Here We Go」について説明する。

この教科書では特に第3の観点「習得した知識・技能を活用した言語活動の工夫」と第5の観点「日常的な生活場面の紹介」を取り上げる。

本書の第3の観点について6年生の教科書84ページ。卒業前の6年生が小学校生活を思い出しやすいように学校行事をイラストで示し、視覚と聴覚に訴える活動から導入が図られている。87ページから筆記が加わり、使用する英語表現について音声認識を深めた上で89ページの会話・応答の活動へとつながっていく。ここでは、過去形を使った表現や「How about you?あなたはどうですか?」のように、相手に反応を促すフレーズも出てきている。自分の考えや気持ちが詳しく伝えられるように段階的に言語活動を導入し、児童が伝えたいスピーチが完成できるように構成されている。

また第5の観点については、5年生の教科書46ページ。本書では、「世界の友達」として、3回シリーズで、ノルウェー、南アフリカ、中国、オーストラリア、アゼルバイジャン、イギリスの日常生活が紹介されている。ノルウェーは「男女平等」南アフリカは「多様な民族」についても記述があり、その国の文化や特色だけでなく人権にも視点が広がるように構成されている。

その他、第1、2、4の観点については、別紙の一覧に示している通りである。光村図書の教科書は「習得した知識・技能を活用した言語活動の工夫」と「日常的な生活場面の紹介」に特徴があると言える。

- ◇会長 選定委員から質問をお願いします。
- ◇委員 3者報告をいただいた。現行、今使っている東京書籍が上がっていない理由を。
- ◇調査員 東京書籍は、調査員から会社のポリシーは感じられるが、構成がやや複雑でわかりにくいという意見があった。1時間の授業でどこまで進めばよいか分かりにくい。

指導するにも、分かりにくい点がある。他者の方が、ゴールに向かっているので使いやすいという意見があった。

◇会長 指導者が指導しやすいということは、教育の質保障という点で大切。指導しやすい、到達目標が見えやすいということは重要。開隆堂は、報告にあったように、学習の手順が明確で、子供たちにも分かりやすい。QRコンテンツ、英語に堪能な先生でなくても、発音などカバーできる。今の3点と理解したが、指導者が理解しやすいとは具体的にどういうことか。

◇調査員 例えば、啓林館のBlue sky。練習問題がたくさんある。教科書と言うより、ワークシート、ドリルのように見えてしまう。3者は、視覚で押さえ、聴覚、スキットの学習に入っていく。3者の方が指導しやすい。

東京書籍、NEW HORIZONEの6年生の89ページ。左下、中村哲さん。読み物教材としては興味深くよいが、視聴してみると、指導者としては何をゴールにして良いか分からない。ゴールが明確である3者に対して、付録のようなところで、じゃあどうしようかというようになるのが、東京書籍の特徴であると考えている。

◇委員 今の東京書籍と、今回で大きく変わっているところがあるのか。

◇調査員 中身は若干の修正があるが、調査員からは、現在の教科書も、ゴールが明確でなく、何を目的意識とするかわかりにくいという意見を聞いている。

◇委員 巻末にカードがついており、この間、オンライン化が進んでいるが、使う頻度はどうなのか。ICT化が進めば、これらは重視しなくても良いのか。

◇調査員 活動することと表現がエピソードとして入っていくので、3、4年生の外国語活動であれば必ず使う。5、6年になると、概念として理解していくので、使わないこともあり得る。入門期においては、カードを1つ1つめくることも大変重要な活動だと思う。少し自分の意見が入ってしまった。

◇委員 採択替えの可能性があるということか。現行、東京書籍だが。本末転倒かもしれないが、現場としては、シラバスを作り直さないといけなくなる。子供たちのためということであれば一番良い教科書を選ぶことが良いが。

◇調査員 なぜ、東京書籍が、人気がないのか。尾道市以外の調査員に聞いても、やはり指導が難しいと意見があった。

◇会長 他に意見がなければ、研究の報告は以上とする。

〔調査員退室〕

ただいまの報告を基に意見があれば。

◇委員 小学校、英語の入門期は、話すこと、聞くことが中心となる。改めて東京書籍を見ると、書くことが多い、日本語で書く部分も多い。英語の露出歩合が少ない。言語

活動も大切にしないといけないが、そういった観点から言うと、英語に触れる文字数、ページ数が少ない。開隆堂、配列、見開きで上手く作っている。まずは聞くことを中心にスタート。英語のやりとりを会話形式できっちり書いて重視している。入門期である、話すこと、聞くことについてよくできていると思う。観点でどこを○にしていくかというのはあると思うが、今の感想である。

◇会長 今の意見からも、調査研究からも、東京書籍を評価できないということになってくる。書くことが多く、ねらいたいこととはずれてくるということは問題。やはり調査員の挙げられた3者が対象となってくると思う。

◇会長 ○がついている観点が3者でそれぞれ違っている。今日の調査員の説明から言えば、第3の観点は、英語について言えば、これが改めて大事だと感じた。どの手順で学ぶか、指導者にとっても、同時に児童にとっても、ゴールが見えやすい。2つずつ○がついているが、第3の観点はより重みがあると感じた。開隆堂は基礎基本と、学習の配列、手順。教育出版は、第2と、第4の観点。光村図書は、手順と言語活動。3者を比べて、気づいたこと、問題と思うことがあれば意見を出していただきたい。

◇委員 前回東京書籍の採択。別冊がポイントとして挙げた。今はタブレットがあつて必要に応じて調べられる。あまり用途がなくなったのかなと思う。

◇委員 県の選定資料P168。開隆堂は、話すことのやり取りが71や72と他者に比べて多い。

◇会長 そこもプラスに評価して良い。

◇委員 外国語の授業。小学校では、まずは聞くこと、言葉の発話、やりとり、スモールトークをやることが、ベーシックになっている。伝えることを大事にする授業が多くなっている。そうすると、絵を見ながら伝えたり、スピーキングしたり、5年生、6年生には、まだまだたくさんあった方が良い。調査員の先生が言われたように、やりとりが意識された教科書は使いやすいと思う。中学校では、そこをもとに、書くことにつなげていけると思う。

◇会長 今のような点から言えば、どの者がよいか。

県の選定資料から数だけで言えば、開隆堂が話すこと、聞くことをたくさん設定している。調査員の報告からは、光村図書の第5の観点到に相当する。

◇委員 教科書を見ていると、開隆堂が良い。開隆堂の教科書は、今も学校ではデジタル教科書を使って授業しているが、非常にデジタル教科書とマッチしている。聞くことがベースとなっている。聞いて一致させる。デジタル教科書と相性が抜群と想定される。第2の観点的③のところ、優れた点とあげられているが、主体的に学習に取り組む観点だと思うが、文言を修正すれば、優れた点に挙げられると思う。第5

の観点の⑩、全体的には言語活動が充実しているという印象を受けた。

- ◇会長 ○を増やしてはどうかということか。
- ◇委員 はい。第2の観点の③。
- ◇会長 今の説明は十分に言い得ていないので、価値付けがいる。どんな文言を追加するとよいか。
- ◇委員 これで言うと、デジタル教科書を活用した場合に、「音と文字を一致させるようなこと」や、聞くこと重視でいくので、「子供たちが意欲をもって学習できる」など。
- ◇会長 「聞くこと、話すことを主体的に行う工夫がある」というようなことでよろしいか。これを付け加えることにしましょう。で、開隆堂の②に○をつける。
- ◇会長 当選定委員会からは、開隆堂が○が3つなので、開隆堂が優れていることになる。特に、この三者が優れていて、指導のしやすさ、児童の学習のしやすさ、とくに聞くこと話すこと、しっかり言語活動を進めることから、開隆堂が特に秀でているという説明をすることになる。教育委員会への報告の中で、聞くこと、話すことの言語活動を、小学校段階では特に必要と判断したとする。

【音楽】

- ◇調査員 教育出版社。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-③、2-⑤、3-⑥、4-⑧、5-⑨。特徴的な点は、第1、第3の観点。
- 教育出版社の第1の観点、器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫について。第3学年教科書のP.18～P.25。リコーダーの写真が縦に写されている。自分たちが手に持った時に比べながら楽器を見ることができる。また、リコーダー入門に当たり、鑑賞曲を聞かせることによって児童がリコーダーに興味をもちやすくなっている。QRコードを開くと、映像で吹いている姿と音を聞くことができるようになり、具体的に五感で感じることができるようになっている。そのことにより、初めてリコーダーを手にする児童が意欲をもって取り組めるようになるのではないかと期待ができると考える。また、他学年における器楽の取扱いについて。第1学年の鍵盤ハーモニカの入門期において具体的に椅子に座って吹いている姿が示されている。この写真から座って吹く時のイメージをつかむことができやすいと考える。このように、器楽の入門期における扱いについて丁寧に示されていることが考えられる。
- 次に、第3の観点、我が国の音楽に関する内容の扱いについて。第4学年教科書P.40～P.49「日本と世界の音楽」。まず、日本の伝統的な音楽について音階

などを使って学習するようになっている。民謡を取り上げ、日本の民謡を四季に分け、お祭りに関連づけている。日本の特徴的な音階をリコーダーなどで演奏させた後に、外国の特徴的なリズムをもっている曲を聞き、リズムを感じさせ日本の音楽の特徴をより感じるできるようになっていると考える。

その他の第2、第4、第5の観点については、別紙の一覧に示している通りである。このように、教育出版の教科書は、入門期における学習の段階を丁寧に扱っており、画像等でも分かりやすく示していることが特徴である。

教育芸術社。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-②、2-④、3-⑦、4-⑧、5-⑨。特徴的な点は、第2、第4の観点。

教育芸術社の第1の観点、題材や学習目標等の示し方。第1学年教科書のP.14～P.21。拍を感じ取ろうでは、基本となる「タン」と「ウン」のリズム打ちを単元として単元の中で何度も示すことによって、指導者も何をするのかがはっきりしており、指導がやりやすいのではないかと考える。単元を示すときに、太く色も変えながら示すことで、より明確になっていると考える。学年が上がっても同じように示され、学習内容が分かりやすく提示されていると考えられる。第5学年のP.12の「こいのぼり」にも、大きく歌う目標が示されている。そのことにより、具体的にどのように学習目標をもてばよいのかが分かりやすくなると考える。次に、第4〔共通事項〕の指導を充実させる工夫について。第6学年教科書P.82～P.83に「ふり返りのページ」が設定されている。また、取り入れられたページに、〈指導者・保護者の皆様へ〉と書かれ、各教材に示している音楽を形づくっている要素が明確に示されている。他の学年も同様に、振り返りのページが示されることによって、学習内容が分かりやすくまとめられていると考えた。

その他の第2、第3、第5の観点については、別紙の一覧に示している通りである。このように、教育芸術社の教科書は、基本的な学習を繰り返し学べるように示していることが特徴である。

- ◇会長 選定委員から質問をお願いします。
- ◇会長 確認と言うことになるが、今取り上げてもらった第1の観点③。評価すると言う点から踏み込んで聞くが、リコーダーに限らず、器楽において、知識技能の習得が分かりやすく示されている、と理解してよいか。
- ◇調査員 はい。教科書を示した方がよいか。
- ◇会長 具体は、先ほど示していただいたので結構。リコーダーに限らずということによいか。器楽の知識技能の習得が分かりやすく示されてことと鑑賞曲にQRコードがついていることから学習に興味を持って取り組むことができるということの2点が③についての説明だと理解してよいか。

- ◇調査員 はい。
- ◇会長 第3の観点。日本文化のよさというよりも文化の固有性に気付けるように示されていると理解してよいか。
- ◇会長 取り上げられている音楽の特色、楽曲の選び方は、あるか。
- ◇調査員 2者とも高学年になると歌いごたえのある合唱曲が掲載されているし、すごく変わっているということはない。
- ◇会長 教材となる楽曲の充実度については大きな違いはないという印象か？
- ◇調査員 そうである。6年生で言えば、卒業に向けて、歌いごたえのある楽曲が、曲は違いますが載っている。
- ◇会長 授業外の行事と音楽の関わり。音楽の授業外に発展するような、実際の現状はどうか。
- ◇調査員 3年生で弦楽器に触れ、触ってみて聴くとなると学びが全然違う。弦楽四重奏を市内いくつかの学校で聴いたが、児童たちは、ビオラ、バイオリン、チェロ、コントラバスを実際に見て大きさや音に驚いていた。
- ◇会長 学校内外で、行事がある。そういう関わりで考えると、どちらかの内容が良いということがあるか。
- ◇調査員 どちらの教科書会社も載せている。どちらが良いとはいえない。
- ◇会長 どちらにも有効な内容があるということか。
- ◇調査員 はい。
- ◇会長 伝統的な文化の扱い方でいうと、教科書会社で違いがあるか。
- ◇調査員 4年生の「さくらさくら」の琴の扱いについて違いがある。教育芸術社は、「さくらさくら」が英語で載っている。
- ◇委員 ○の数は2つで同じ。調査委員会の中で、ほぼ二つ同列という評価だったのか。
- ◇調査員 現行は教育出版。変わったところがよくわかった。1年生のところの違いがよくわかった。写真と絵の違い。教育芸術社は子供の写真は出ていない。教室は出ている。絵の色、イラスト、教育芸術社の方が濃い。子供たちが学ぶときにどんな気持ちになるか。共通教材「ひらいたひらいた」について、教育出版はひかえめである。ずいぶんとイメージがちがう。
- ◇委員 QRコードについて。どちらの教科書が良いといえるのか。
- ◇調査員 教育出版は1回1回注意が出てくる。また、教育芸術社は音源のみで、教育出版は子供の画像が出てくるという違いがある。どちらが良いと言えば、画像があった方が子供にとっては、分かりやすくなる。
- ◇会長 そこは、分かりやすさの大きな違いになってくる。
- ◇委員 高学年になると音楽祭やコンクールがある。課題曲は、教科書から選ぶ。合唱曲の

違いはあるか。

◇調査員 6年生については、教育芸術社の方が大曲がある。しかし、曲は、指導者の好みもあると思う。

◇会長 現行、今使っている教科書と、大きな変化はあるか。

◇調査員 そこまで大きな違いはない。QRコードがついたこと。現行よりもQRコードは充実してきた。

◇会長 調査研究については、以上。

〔調査員退室〕

ただいまの報告を基に、意見があれば。

◇会長 第1の観点の③。記述が「○」とする理由の説明が不足している。

器楽の知識技能の、「リコーダーの」のところを「器楽の」に変える。「～分かりやすく提示されている。」で文を切って、もう一文、「鑑賞曲をQRコンテンツで付属するなど、興味関心を高める工夫がある。」と文言を足して、評価の言葉にしたい。第3の観点⑥のところは、文化の固有性とする。教育芸術社の第1の観点②は、このままだと弱いので、「歌詞の解釈と歌い方の工夫が明確に示されており、学習内容が分かりやすくまとめられている。」とする。「何を学習するか明確にまとめられている。」と付け加えることにする。そのままだと、これで○なのかということになる。

◇委員 歌唱教材。めあてみたいな感じで提示されている。これが果たして、歌唱の基礎基本の定着を図る工夫と言えるのか。調査報告がずれているのかもしれない。

◇会長 観点の項目としては、ここしかない。基礎基本の定着。楽曲の理解と表現に関わるような項目。これも基礎基本のうちに入っていると理解するか。ほかに持っていきようがない。

◇委員 5年生を見比べて、高学年になると合唱が増える。教育出版で、学び合う音楽の方法が書かれている。パートに分かれて、合唱曲を、一緒に作り上げていく過程が書かれている。教育芸術社には、合唱の作り方ではなく、曲想について書いてある。上がり下がりや一つ一つどう聞こえるかなど、この辺が特徴なのではないかと思う。P41に「見つける、考える、歌う。」や「見つける、考える、聞く。」と学習過程のことが書いてある。歌い方の過程にも特色がある。

◇会長 合唱を取り上げるにあたって、教育芸術社が重視しているのは技能面とって良いのか。

◇委員 教育芸術社は曲想について書かれている。

◇会長 教育芸術社の特徴は、楽曲の理解と表現に特徴があり、教育出版は活動の仕方に焦点があたっている。

- ◇会長 それぞれの教科書のコンセプトの違いは記録しておきたい。尾道市の小学校教育ではどちらを重視するのか。教科内容なのか。活動そのものなのか。個人的には、教育出版のように活動の方に目が向いている方が、子供たちに何を体験させるかはつきりして、よりふさわしいのではないかと。
- ◇委員 曲選びに、教育出版で困っていない。継続した方が、学校現場の負担が少ないし、尾道の教育のねらいに沿ったものになる。QRコードは、教育出版の方が、中身が充実している。楽譜も出て音楽も鳴る。どこを行っているかわかる。教育芸術社は、短音で主旋律だけ流れる。教育出版の方が、良い教科書の作り方をしている。
- ◇会長 QRコード、教育出版の方がより充実しているというのは記録に残しておきたい。継続性について、そのこと自体の考え方については、当選定委員会の考え方としては、同じ教科書を使用した方が良いということを前提条件にせず、より相応しいものを選ぶという考え方を明確にしておきたい。今使っている者が有利ではなく、あくまで公正に判断していく。継続した方が教えやすいのは事実。ただし、それは評価には影響していない。○をつける数などには影響していない。これは各教科同じである。
- ◇委員 尾道市は合唱コンクール等で合唱の喜び等を育てていると思うが、教育出版の方が、2年生から2部合唱が入っている。系統性も意識されている。
- ◇会長 今のことを第3の観点に書き加えていく。文章は、事務局でまとめたものを送って、確認していきたい。
音楽は以上で。

【家庭】

- ◇調査員 東京書籍。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-④、3-⑦、4-⑨、5-⑩。特徴的な点は、第3、第4の観点。
第3の観点⑦実践的・体験的な学習を実施するための工夫について。各題材のはじめに活動1「話し合おう」という活動が入れてあり、合わせて「トライシート」を用意し、導入段階で意見の可視化、整理することで、考えが深まり課題を発見できるようになっている。また、このトライシートは、デジタル思考ツールを使用して考えるようになっており、例えばP13の話し合おうでは、思考ツールの中のXチャートを使っている。右上のQRコードを読み込むと、Xチャートの表が児童のタブレット上にダウンロードされ、書き込みをすることができる。P20に活動1話し合おうとあるが、ここではどのような表を使うかわからない。P21右上のQRコードを読み込むとYチャートの表が表示される。各題材ごとに活動にあった思考

ツールを活用し、考えを整理しやすくしている。

次に、第4の観点⑨イラストや写真等の活用について。調理や裁縫など実技を伴う内容について、写真・イラストを効果的に使用し、わかりやすい工夫がされている。P89に野菜炒めの手順をイラストと写真で説明している。また動画でも確認できるようP89右上にQRコードがついている。野菜を切る大きさを視覚的に確認しやすいよう、P88のピーマン、たまねぎ、ハムの写真のように実物大の大きさで示してある。

P136、137に、野菜のいろいろな切り方が説明してある。切った形だけでなく、包丁を野菜にどのように入れるかがわかるイラストがついている。P137の写真のように、にんじんを切る場合、指や包丁の当て方を右利き・左利きに分けて実物大の写真で示されているので、教科書の写真の上に手をあて、実際に包丁を使う前に練習することができる。

開隆堂。特に特徴といえるもの、よいと考えられる観点は1-①、2-⑤、3-⑥、4-⑨、5-⑩。特徴的な点は、第2、第4の観点。

第2の観点⑤実生活での活用に関する記述では、各題材の最後に「生かす・深める」の欄が設けられ、学習内容を生活に結びつける活動例が示されている。

例えば、P27には、裁縫を学習したことを自分たちの生活にどのように生かせるか活動例を示すことで、見通しや意欲をもたせている。このような実践例が5年生10回、6年生9回、合計19回と多く掲載されている。

また、P80～83には、④学習した内容を家庭・地域での実践に関連して、「生活の課題と実践」の取組を5ステップで示し、具体例をヒントに自分の「生活の課題と実践」に取り組みやすくしている。また、実践の具体例を家庭だけでなく、学級単位・地域単位で行えるような実践の具体例を提示している。

次に、第4の観点⑨イラストや写真等の活用について。東京書籍と同じように調理や裁縫など実技を伴う内容について、写真・イラストを効果的に使用し、わかりやすい工夫がされている。野菜のいろいろな切り方は、裏表紙に切り方が写真で載っている。

P148、149には、にんじんの切り方、ジャガイモの皮むきについて右利き・左利きに分けて説明してある。切り方と大きさの目安の実物大の写真が載っている。

特徴的なのは、実習の手順が見開きで大きく横流れで示されていることである。P52、53には、味噌汁の作り方を説明してあるが、味噌汁のだしを取るところから盛り付けまで、全体の流れが見やすい横流れの提示になっている。

開隆堂は、調理・制作実習手順はすべてこのような提示の仕方になっている。手順

を見やすい形にすることで、誰もが迷わず明確に理解でき、特別支援教育の観点からも配慮されている。

- ◇会長 特に優れている点について、納得できる説明をしていただいた。
- ◇会長 東京書籍、実際の大きさが分かりやすい。開隆堂は横に一連の動作がぱっと見て分かるようになっている。どちらもプラスに評価。比べてみて、特に優劣に関わることで、こちらの方が、違いとして、優れているということがあるか。
- ◇調査員 前は、大きさなど、明らかに違いがあった。今回は大きさも同じ。申したところが違うところ。どちらが良い悪いとはなかなか言いにくい。
- ◇会長 現行、使っている教科書との違いは。
- ◇調査員 東京書籍。QRコードが増えている。SDGsに触れる特集ページがある。見開きに成長の記録というページが増えている。2年間の成長が1ページにまとめられるようになっている。
- ◇会長 東京書籍に新しく加わった、自分の成長、ふり返りについて、開隆堂ではどのように扱われているか。
- ◇調査員 あったと思うが、パツとは見つからない。
- ◇会長 QRコードの違いはどうか。
- ◇調査員 右利き、左利きの動画について、1回で出るか、2回で出るかといった、ほんとはちょっとした違いである。
- ◇会長 動画の作りに差はないか。
- ◇調査員 見た限りでは、大きな違いはなかった。
- ◇会長 報告は以上。見開きで、次何するか分かりやすいというところは、良い工夫。
- ◇委員 言語活動について、第5の観点⑩のところでは、県の選定資料では、東京書籍には、話し合おうが充実している。
- ◇会長 東京書籍の方がしっかりしているのは、デジタル思考ツールの活用。他教科でもやったら良いようなことが取り上げられている。こういったところは東京書籍の特徴として、高く評価できる。
- ◇会長 ○はともに2個。優劣付けがたい。それぞれこういう特徴があると報告するか、第5の観点で○にしていくか。調査員の報告では内容的には遜色ないとなっている。
- ◇委員 県の選定資料を見て、言語活動には優劣が出ている。本市でも言語活動を充実していくと思えば、第5の観点を○にしても良いのでは。
- ◇会長 それでは、第5の観点を○にして、言語活動が充実していると一文、付け加える。本市においては特に重視したい点である。家庭科に限ったことではない。それに使えるデジタル思考ツールを取り入れたことは、ICT機器を本当に活用するのはこれからという段階だから、思考ツールを使うことも取り入れていかないといけな

い。

◇委員 家庭科は、生活と密着している。整理するために、思考ツールは役に立つ。

◇会長 「地域や家庭との関わりの中で、問題解決的な思考をする際に有効だ。」を付け加える。

本日のように、調査員からは調査した事実を記述したものが出てくる。当委員会では、これもとに尾道市での使用を考えて評価を行っていく。

以上で第2回の選定委員会の審議を終了する。